

令和5年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（いきいき長寿保健事業）について

1 趣旨

令和2年度から開始した本事業について、令和5年度の実施状況を報告するもの。

2 事業内容

(1) 目的

高齢者の多様な心身の課題に対応したきめ細やかな支援を実施し、フレイル予防と病気の重症化予防、QOL（生活の質）の維持・向上を図り、健康寿命の延伸につなげる。

(2) 対象者・支援内容

【ハイリスクアプローチ】

・対象者：令和4年度後期高齢者健診等の受診者のうち、概ね75～80歳で以下に該当する者

低栄養	BMI20以下かつ体重減少が認められる者
口腔機能低下	かたいものが食べにくい、水分摂取でむせる等、口腔機能低下が認められる者
生活習慣病重症予防	受診勧奨判定値のうち重症度の高いレベルの医療未受診者

・支援内容：訪問、電話等による低栄養・口腔機能低下・生活習慣病重症化予防の相談・指導

【ポピュレーションアプローチ】

・参加者：ふれあいサロン（高齢者の集いの場）、筋力アップトレーニング自主グループ等の参加者

・支援内容：フレイル予防の講話（フレイル全体、低栄養、口腔機能低下の3パターン）

フレイルチェック（高齢者の質問票、指輪っか、10品目チェック、口腔機能チェック等）

(3) 実施結果（令和6年1月31日現在）

【ハイリスクアプローチ】

単位：人

	対象者数	実施者数				高齢者相談センターとの連携
		訪問	電話	その他	合計	
低栄養	50	19	30	0	49	3ケース ・日中独居で社会参加がなく、精神的フレイルが疑われるケース ・その他、2ケースは将来的に支援が必要と判断したケース
口腔機能低下	55	16	33	1	50	
生活習慣病重症化予防	79	13	62	0	75	
合計	184	48	125	1	174	

【ポピュレーションアプローチ】

実施回数：66か所、実施者数：840人、フレイルを知っている人の割合：64.9%

3 事業評価

ハイリスクアプローチでは、介入前に医療専門職間でケースアセスメントの検討会議を実施し、訪問、電話等を通して、対象者のうち低栄養は98.0%、口腔機能低下は90.9%、生活習慣病重症化予防は94.9%の方に保健指導等が実施できた。

ポピュレーションアプローチでは、フレイルを知っている人の割合が前年度より9.1%、実施者数も534人増加し、フレイル予防について普及啓発を図ることができた。

4 今後の取組

(1) ハイリスクアプローチ

対象者のフレイル状態をアセスメントし、治療や介護サービスが必要と判断した対象者を医療や介護など適切な関係機関へつないでいく。

(2) ポピュレーションアプローチ

高齢者相談センターと連携し、ふれあいサロン等に出向いてフレイル予防の普及啓発に努めていく。

(3) 医療・介護の関係機関との連携

心身に多様な課題を持つ高齢者に対しては、医療、介護、福祉、生活支援等、様々な分野と連携し、支援を展開していくことが必要となるため、今後もフレイル予防や重症予防に必要な検査項目や服薬管理の視点を情報共有し、医療・介護の関係機関の皆様と連携・協力を図り、事業を進めてまいりたい。